

森中だより



2月号

令和3年2月19日発行

横浜市立森中学校 校長 吉原 準一

例年は、ここで、卒業する3年生に勧学の文章を送っています。しかし、今年はちょっと違います。先日、校内をまわっていると音楽室から「GREEN」と「旅立ちの日に」が聞こえてきました。『今年は本当に歌えなかったな』とつくづく思いました。1年間の中で例年やっているスケジュールができず、中止と変更を繰り返した1年でした。『できなくて残念。やれなくて残念』は真実ですが、残念ばかり思わずに、『これから、まだまだやれる機会がきっとくる』と思って過ごしましょう。

最近私は、気分転換にマスクをしながら、大声で歌っています。苦しいときは、唇に歌を、マスクをしながらも大きな声で歌ってみよう。気持ちが少し軽くなります。今日の課題曲は、何にしましょうか？49年以上の前の歌が、今の自分を勇気付けています。

今年も梅がほころび始めました。春はすぐそこ。

校長 吉原 準一

受検(験)を終えて ～9年間の義務教育も残りあとわずか～

3年生は、それぞれの志望校への出願から始まり、私立高校の推薦入試、一般入試、公立高校の学力検査・面接・特色検査等と続きました。今年度は新型コロナウイルスの影響で、私立高校は郵送による出願やネット出願・書類選考が増えたり、公立高校の出願は、学校で一斉に行われたりと変化の多い年になりました。ようやく一段落し、今後は公立の合格発表を待つこととなります。

そして、3月11日(木)の卒業式までの中学最後の時間・特別日課の時間割が始まりました。新型コロナウイルスの影響で、できなかった行事(スポーツ大会・遠足等)や百人一首大会、卒業式に向けての練習が予定されています。また、この期間では、仲間づくり、協力し合うこと、認め合うこと、励ましあうこと、感謝することなど卒業後に歩む道で大切なことを学習します。森中学校で3年間育み、培ってきたことを胸に残り少ない学校生活を本校教職員と共に充実させ、卒業式の晴れの舞台に臨んでほしいと思います。

3年学年主任 中谷 郁

2年 様々な活動を通して



2月4日に百人一首大会が行われました。授業やクラスの時間で、皆楽しみながら、一生懸命練習していました。今年度は会場がクラスになり、放送室から句を詠む方法をとりました。実際に競技が始まると、上の句の数文字で札を取りにいくような、白熱した試合が繰り広げられました。札をとるタイミングが重なってしまった時も、速やかにじゃんけんをするなど、お互いのことを考えながら競技に取り組む姿勢が大変立派でした。ルールを守りながら全力で楽しめたことは、相手への敬意とともに、自分が真摯にその競技に向き合っていることになるのではないのでしょうか。何事にも真剣に向き合う姿勢を、これからも期待しています。

2学年主任 大谷 理仁

1年 百人一首大会



1月下旬に百人一首大会が行われました。百人一首は遠い昔に誕生したのですが、最近では漫画や映画の影響もあり、より身近なものになった気がします。準備は国語の時間や学活の時間を使って進められてきました。中には毎日暗記と試合を繰り返し、熱心に準備をしてきたクラスもありました。コロナ禍ということで、副担任の先生が放送室より歌を読み、各クラス6チームが4クラスに割り振られ戦うという例年とは新しい形式での開催となりました。人気の歌が読まれると放送室まで歓声が聞こえてきました。準備が実を結び勝利に結びついたこと、なにより百人一首を楽しんでいたことが印象的でした。次は遠足、そして福祉学習のまとめが待っています。一つひとつを準備から当日まで楽しんでもらいたいです（どちらもできることを祈りながら…）。

1年学年主任 内山 菜美

6・7組合同学芸会



1月28日（木）磯子区合同学芸会（西公会堂）は中止となりました。

演目No.5 森中は、『森の世界はあなたに笑いかけている』です。Little Glee Monsterの曲にあわせて、レッド、ブルー、イエロー、グリーンの大旗と手旗信号旗を振って個別級の5人の動画撮影を行いました。森中といえばフラックダンス。恒例となり5年目の今回は、フリー演技や手旗信号「モ」「リ」に挑戦しました。動画には3年生のお別れメッセージも添えて、磯子区内7校で交換披露をします。短い練習期間でしたが、心をひとつにして2種類のウエーブをきれいに表現することができました。

来年は舞台に上がれますように。



森中学校のホームページでも
情報を公開しています。